

ひかえおろう！！みとアリーナが目に入らぬか
～大型スポーツ施設を活用した地域経済活性化について～



指導教官：西藤 公司 自治大学校客員教授

第2部過程 第184期 第1班

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 16番 | 茨城県水戸市 | 寺山 善一 |
| 23番 | 埼玉県熊谷市 | 新井 雅典 |
| 45番 | 岐阜県本巣市 | 江口 宏文 |
| 77番 | 長崎県諫早市 | 平高 伸一 |
| 79番 | 熊本県宇土市 | 末鶴 慎次 |
| 82番 | 鹿児島県始良市 | 山元 城二 |

目 次

| | |
|-----------------------------|----------|
| 政策提言の要旨 | 1 |
| はじめに | 2 |
| <u>第1章 現状分析</u> | <u>2</u> |
| (1)水戸市の現状 | |
| (2)アダストリアみとアリーナの概要 | |
| <u>第2章 課題の抽出</u> | <u>5</u> |
| (1)単なるハコではなく発信の拠点としての活用 | |
| (2)疲弊する中心市街地への誘導 | |
| <u>第3章 政策提言</u> | <u>6</u> |
| 提言1 効果的な情報発信 | |
| (1)観光PRの拠点をアリーナ内に移転 | |
| (2)地元プロスポーツチームを活用した観光PR | |
| 提言2 アダストリアみとアリーナからまちなかへの誘導策 | |
| (1)水戸漫遊1日フリーきっぷ(バス)の積極的な活用 | |
| (2)レンタサイクルの活用 | |
| 提言3 地域資源とアリーナ来場者とのつながりの構築 | |
| (1)まちなかワイナリーの活用 | |
| (2)お得なチケットの販売・活用 | |
| 事業費と経済効果 | |
| おわりに | 14 |

政策提言の要旨

現状分析

➤ 平成 31 年 4 月にアダストリアみとアリーナがオープン

- (1) 水戸市の現状
- (2) アダストリアみとアリーナの概要

課題の抽出

- 昔と比べて中心市街地の人通りが少ない
- 体育館利用者、スポーツ観戦者をうまく活用できていない

- (1) 単なるハコではなく発信の拠点としての活用
- (2) 疲弊する中心市街地への誘導

政策提言

提言 1 効果的な情報発信

提言 2 アダストリアみとアリーナからまちなかへの誘導策

提言 3 地域資源とアリーナ来場者とのつながりの構築

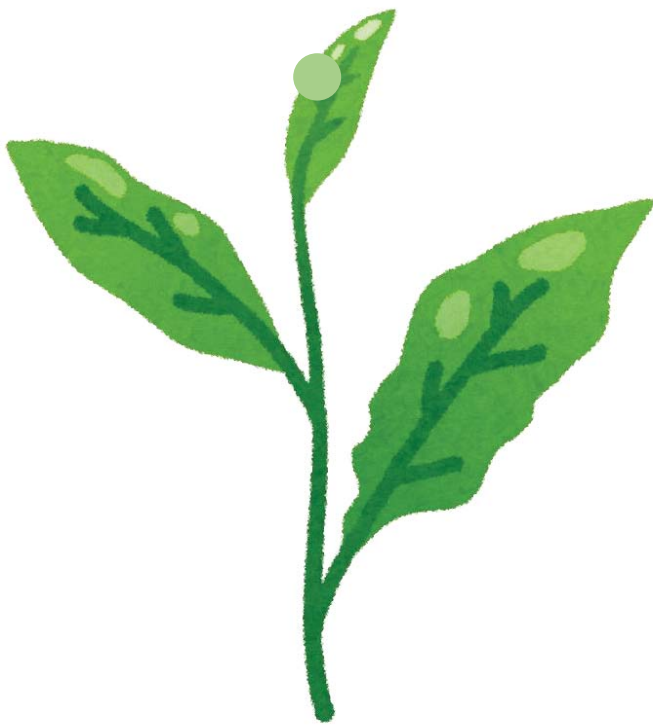
➤ にぎわいの創出

経済効果で 1.6 億円



相良村のお茶でまちおこし

～ 愛に生きる村の挑戦 ～



指導教官

自治大学校客員教授 丸山 淑夫

第2部課程 第184期 第2班

81番 熊本県相良村 川邊 俊二

19番 栃木県大田原市 高崎 直子

36番 東京都小平市 佐藤 崇

38番 神奈川県座間市 花上 征之

58番 愛知県美浜町 神谷 一宏

73番 福岡県飯塚市 桑原 大典

目次

| | |
|------------------------------|----|
| 政策提言の要旨 | 1 |
| はじめに | 2 |
| 第1章 相良村の現状分析 | 2 |
| 第1節 相良村の概要 | 2 |
| 第2節 相良村の人口と高齢化率の推移 | 3 |
| 第2章 課題の抽出及び目標の設定 | 3 |
| 第1節 相良村のお茶の現状 | 4 |
| 第2節 目標設定 | 6 |
| 第3節 目標を達成するための課題抽出 | 7 |
| 第3章 政策提言 | 7 |
| 第1節 茶業経営の共同化 | 8 |
| (1) 茶生産の共同化 | 8 |
| (2) 優良品種への改植及び収穫時期の分散化 | 8 |
| (3) 抹茶生産への新規参入 | 9 |
| (4) 安心・安全の確保（GAP 認証） | 10 |
| 第2節 村の独自素材の活用 | 11 |
| (1) セント・ヴァレンティン村との連携 | 11 |
| (2) 未活用施設の活用 | 12 |
| おわりに | 14 |

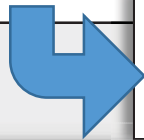
相良村のお茶でまちおこし

～ 愛に生きる村の挑戦 ～



背景

熊本県相良村は、人口減少により現在人口が4,487人（H30.12月末時点）と5,000人を割っており、併せて少子高齢化が進んでいることにより地域経済が停滞している。特に人口減少の進行が他自治体と比較しても著しい。



相良村独自の素材を活かし、地域の活性化に繋げることができないか・・・

相良村の代表的な農産物 = お茶

お茶を活かし、地域を活性化させたい

現状と課題

現状

- お茶の生産農家は28戸で、そのほとんどが担い手不足である。
- 熊本県内一のお茶の産地で農林水産大臣賞など受賞し、高品質であるが一部の茶農家だけであり、相良村のお茶としての販売も少なく、全国的にあまり知られていない。

課題

- 現在のままでは、担い手も少なく、将来が先細りする。将来を見据えた対策が必要である。
- 高品質なお茶がある一方、各茶農家独自に生産し、老樹化も進んでいるため、品質にばらつきがある。
- 様々なPR活動は行ってはいるが、相良茶は、ほとんど知られていないため、独自のPR方法を検討する必要がある。

課題を踏まえ、品質の維持・向上及び将来対策、そして最終的には相良茶のブランド化を目標にした政策の提言を実施

政策提言

政策Ⅰ 茶業経営の共同化

- ・茶生産の共同化
- ・優良品種への改植及び収穫時期の分散化
- ・抹茶生産への新規参入
- ・安心・安全の確保（GAP認証）

政策Ⅱ 村の独自素材の活用

- ・セント・ヴァレンティン村との連携
- ・未活用施設の活用



課題に対しての政策の効果

アニメインバウンドを活用した地域活性化



《第2部課程第184期 3班》

| 学籍番号 | 自治体名 | 氏名 |
|------|---------|--------|
| 2番 | 北海道岩見沢市 | 倉田 直満 |
| 15番 | 福島県いわき市 | 渡辺 智史 |
| 27番 | 埼玉県入間市 | 佐藤 大輔 |
| 30番 | 埼玉県幸手市 | 島田 陽一郎 |
| 35番 | 東京都武蔵野市 | 丸山 潤 |
| 46番 | 静岡県沼津市 | 秋山 裕子 |

目次

はじめに

| | |
|---------------------------|----|
| 政策提言要旨 | 1 |
| 第1章 現状と課題 | 2 |
| 第2章 政策提言 | 5 |
| 提言 ① 公衆無線 LAN の増設 | 5 |
| 提言 ② 沼津市公認の聖地巡礼観光 MAP の制作 | 7 |
| 提言 ③ 中国人向け情報発信の強化 | 10 |
| 追加提言 外国人向け災害情報発信の強化 | 11 |
| おわりに | 14 |

はじめに

現在、日本においては外国人観光客が年々増加しており、今後も「東京オリンピック」「大阪万博」「ラグビーワールドカップ」等の開催も控え、外国人観光客はさらに増加することが見込まれている。また、過疎化・人口減少など日本の地方各地が頭を悩ませている各種の問題を解決する一つの糸口として「インバウンド誘致」が注目を集めている。

沼津市は、新鮮で豊富な魚、お茶やミカンなどの農作物、富士山を望む自然条件を活かし、外国人観光客も多く訪れる観光地として発展してきた。

加えて、2016年には沼津市がアニメ「ラブライブ!サンシャイン!!」の舞台となったことで、「クールジャパン」の1つとして世界からの評価も高いアニメの舞台を巡る「聖地巡礼」の地として、日本人のみならず海外のアニメファンも沼津市に訪れるようになった。

これを契機として、民間事業者や沼津市ではさまざまなインバウンドも含めた観光客誘致策が行われ、また、ファンやファン同士による自主イベントが開催されるなど活発な活動が行われている。

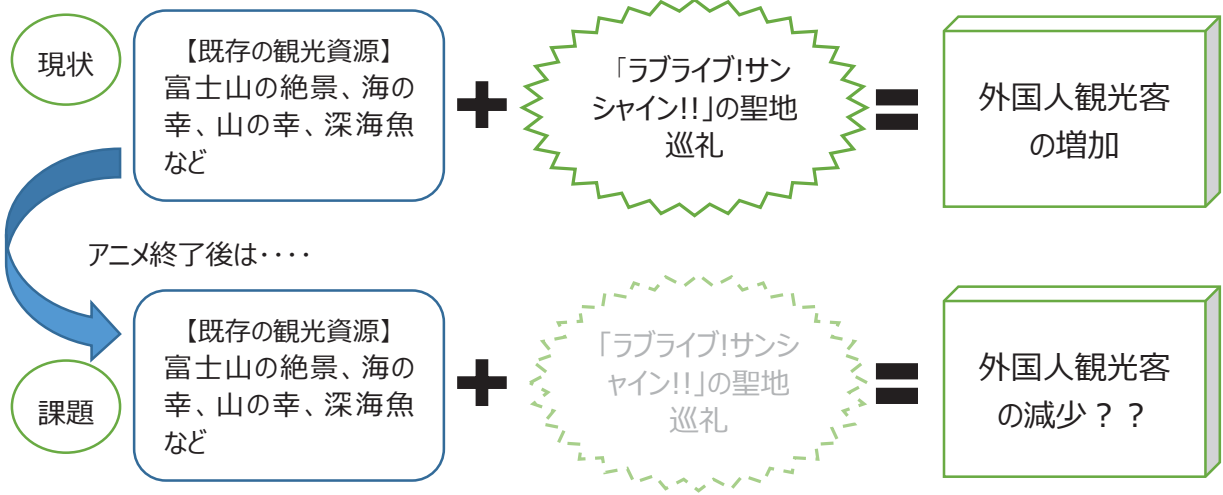
アニメの舞台になったという外的要因がきっかけとなり、国内外の観光客がここ数年で急増した沼津市において、一般的な観光客と「聖地巡礼」の導線の違いに着目し、既存の沼津市の外国人向けの施策の問題点や、本来行政が行うべきであるが対応ができていないもの、あるいは対応が遅れてしまっているものが無いかを考え、分析することで、より多くの観光客が沼津市を訪れ、そして、引き続き訪れてもらえるような政策を提言することとした。

アニメ「ラブライブ!サンシャイン!!」とは…

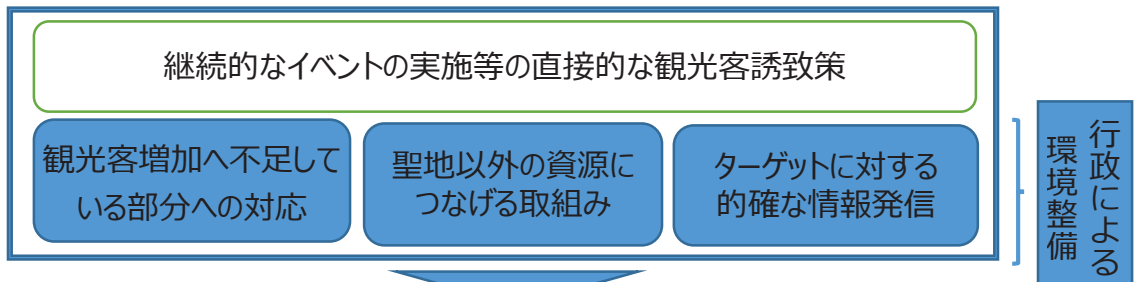
メディアミックスで展開されるスクールアイドルプロジェクト「ラブライブ!」シリーズの2作目。沼津市内浦にあるとされる私立女子高「浦の星女学院」を舞台に、9人の女子高生たちが、統廃合の危機に瀕した母校を盛り上げていくため、スクールアイドルを目指すことを通じ、成長していく姿を描いたアニメである。なお、アニメの登場人物を演じる声優たちもアニメ内のアイドルグループと同様「Aqours (アクア)」と名乗って現実のアイドル活動を行っており、2018年末のNHK 紅白歌合戦への出場やアジアツアー（中国・台湾・韓国）など、精力的な活動を行っている。



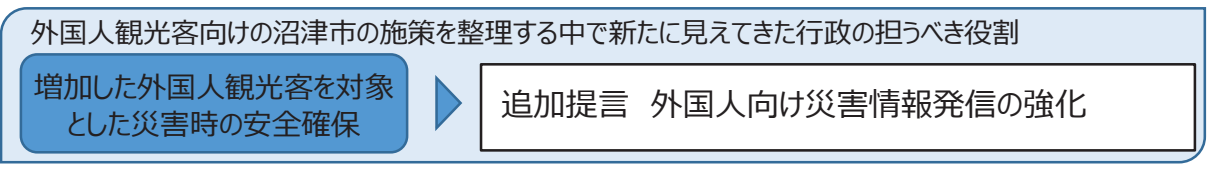
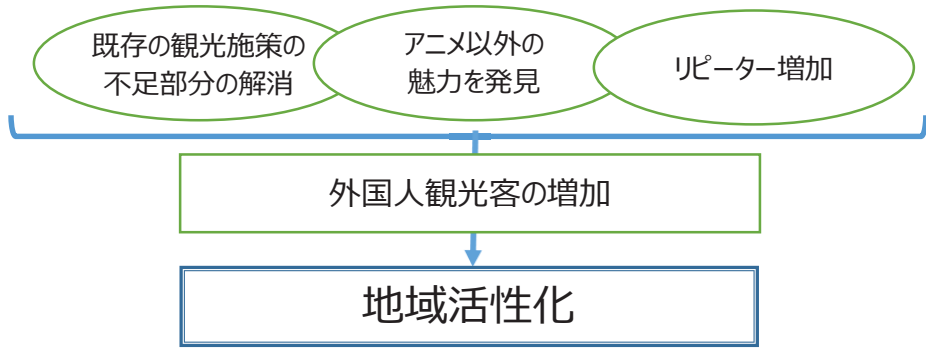
政策提言要旨：アニメインバウンドを活用した地域活性化



一過性で終わることを防ぎ、外国人観光客に継続して来てもらうために



| 政策提言 |
|--------------------------|
| 提言① 公衆無線 LAN の増設 |
| 提言② 沼津市公認の聖地巡礼観光 MAP の制作 |
| 提言③ 中国人向け情報発信の強化 |



美濃焼とタイルの特産品を 活用した地域活性化

～ 地域から美濃焼愛を広めよう！

We ♥ 美濃焼 ～



多治見市キャラクター うながっぱ

(指導教官)

自治大学校客員教授 西藤 公司

第2部課程第184期 第4班

- | | | |
|-----|---------|--------|
| 8番 | 北海道興部町 | 須田 寿史 |
| 13番 | 宮城県名取市 | 佐藤 旭一 |
| 28番 | 埼玉県朝霞市 | 佐藤 百合子 |
| 34番 | 千葉県印西市 | 峰村 浩一 |
| 42番 | 岐阜県多治見市 | 水鶏口 博宣 |
| 47番 | 静岡県熱海市 | 高木 美紀 |

目次

| | |
|--------------------------------|-------|
| 政策提言の要旨 | P. 1 |
| はじめに | P. 2 |
| 第1章 現状分析 | |
| 1 美濃焼とは | P. 2 |
| 2 歴史・特徴 | P. 2 |
| 3 データから見る美濃焼の現状 | P. 3 |
| 第2章 課題抽出 | |
| 1 ヒアリング調査、既存施策からの課題抽出 | P. 4 |
| 2 課題の整理 | P. 8 |
| 第3章 目標設定と政策提言 | |
| 1 目標設定 | P. 9 |
| 2 政策提言 | |
| (1) 作陶技術の継承と後継者育成 | P. 9 |
| ～意匠研究所、生涯学習による美濃焼愛、裾野拡大策～ | |
| (2) 商店街活性化施策 | P. 11 |
| ～多治見まちづくり株式会社による美濃焼マネジメント支援事業～ | |
| 第4章 政策効果 | P. 13 |
| おわりに | P. 14 |

政策提言の要旨

現状 分析

- 美濃焼産業における事業所数や従業者数、出荷額の減少
- 美濃焼の将来を担う後継者の減少

課題 抽出

- 若手陶磁器作家（職人）の市内定着率が低い
- 美濃焼を活用した商店街活性化が図られていない
- 美濃焼に対する市民の関心が薄い

目標 設定

- 将来を担う若い人材の市内への定着
- 美濃焼を活用したまちの賑わい

政策 提言

- 作陶技術の継承と後継者育成
- 商店街活性化施策

効果

美濃焼を活用した地域振興

熱海との連携による 伊東市の観光活性化策

～「いっとう」いい資源が「あった、み」いつけた！～



【指導教官】自治大学校客員教授 三輪 和夫

第2部課程 第184期 第5班

| 【学籍番号】 | 【所属自治体】 | 【氏名】 |
|--------|----------|--------|
| 83番 | 沖縄県浦添市 | 松永 雄一郎 |
| 7番 | 北海道新十津川町 | 得地 史郎 |
| 25番 | 埼玉県草加市 | 近藤 陽子 |
| 48番 | 静岡県伊東市 | 村山 和弘 |
| 71番 | 徳島県徳島市 | 大瀧 昭洋 |
| 80番 | 熊本県合志市 | 中島 仁 |

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| 政策提言の要旨 | 1 |
| はじめに | 2 |
| 第1章 現状分析 | 2 |
| 1 伊東市の現状 | 2 |
| 2 近隣観光地との比較 | 4 |
| 3 連携への取り組みの現状及び現地観光担当者へのインタビュー | 5 |
| 4 ニーズ調査 | 6 |
| 第2章 課題整理と目標設定 | 7 |
| 第3章 政策提言 | 8 |
| 1 政策提言の概要 | 8 |
| 2 既存の地域観光資源を活用したコンテンツの充実 | 8 |
| 3 魅力的な平日サービスの提供 | 11 |
| 4 費用対効果 | 13 |
| おわりに | 14 |

【政策提言の要旨】

熱海との連携による伊東市の観光活性化策

伊東市
の理想

ずっと住みたい また来たい
健康保養都市 itou

(伊東市総合計画で目指す将来像)

現状
分析

- 伊東市の現状(人口、産業、観光動向)
- 観光資源
- 近隣観光地との比較(来遊客数推移、状況)
- 現地調査(伊東・熱海の連携と観光政策の考え)
- ニーズ調査(実態調査報告、聞き取り調査)

課題
は何

- 観光資源の魅力向上
- 平日と休日の来遊客数の差
- 連携による具体的政策の検討

目標

伊東市における平日宿泊者数の増加

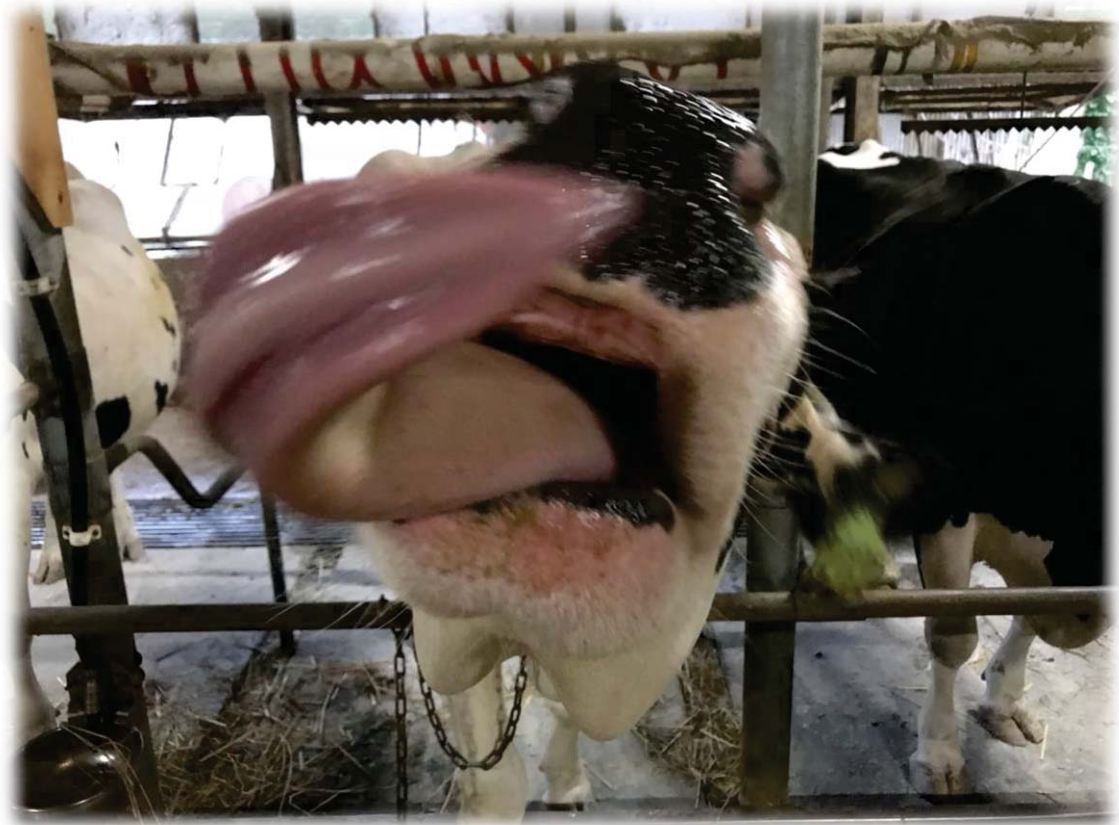
【熱海と連携して展開】

政策
提言

- 既存資源を活用したコンテンツの充実
- 平日の魅力アップ

畜産糞尿処理に係る臭気対策

～さようなら課題、こんにちは課題、そしてさようなら～



指導教官 自治大学校客員教授 満田 誉

第2部課程 第184期 第6班

| | | |
|-----|---------|--------|
| 5番 | 北海道奈井江町 | 高田 基 |
| 29番 | 埼玉県三郷市 | 伊藤 元彦 |
| 60番 | 兵庫県明石市 | 藤原 さやか |
| 74番 | 福岡県糸島市 | 徳永 真一 |
| 75番 | 福岡県篠栗町 | 吉村 久美子 |

目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 政策提言の要旨 | 1 |
| はじめに | 2 |
| 第1章 現状分析 | 2 |
| 第1節 糸島市の概要 | 2 |
| 1 糸島市の特徴 | |
| 2 位置とまちの形成 | |
| 第2節 糸島市の農業の現況 | 3 |
| 1 特徴 | |
| 2 糸島ブランドについて | |
| 3 畜産業における糞尿処理の状況 | |
| 第3節 バイオマスを活用した「糸島市循環型農業モデル」 | 3 |
| 1 大規模集中型バイオマス処理施設による処理 | |
| 2 バイオマス処理の原料 | |
| 3 循環型農業の効果 | |
| 第2章 課題の抽出 | 4 |
| 第1節 畜産業における糞尿処理の課題 | 4 |
| 1 臭気問題 | |
| 2 糞尿処理施設の更新等による費用負担 | |
| 3 バイオマス処理施設の必要性 | |
| 第2節 バイオマス処理により産出される液肥処理の課題 | 6 |
| 1 液肥処理費用 | |
| 2 北海道方式について | |
| 第3章 政策提言 | 7 |
| 第1節 液肥利用のメリットとコスト | 7 |
| 1 メタン発酵消化液とは | |
| 2 消化液を液肥利用することのメリット | |
| 3 液肥散布コスト | |
| 第2節 広域連携による液肥の処理 | 11 |
| 1 広域連携による液肥の利用目標 | |
| 2 広域連携先の選定 | |
| 3 液肥の産出量と散布量のスケジュール | |
| 第3節 糸島ブランドの強化 | 12 |
| 1 液肥利用による糸島ブランドの強化 | |
| おわりに | 14 |

政策提言の要旨



高齢者食堂

～ 高齢者による高齢者のための食堂 ～
フレイルの多面性への総合的アプローチ



指導教官：自治大学校客員教授 市橋 保彦
第2部課程 第184期 第7班

26番 埼玉県蕨市 佐藤 昌史

33番 千葉県富津市 吉田 智一

39番 富山県氷見市 利光 幸則

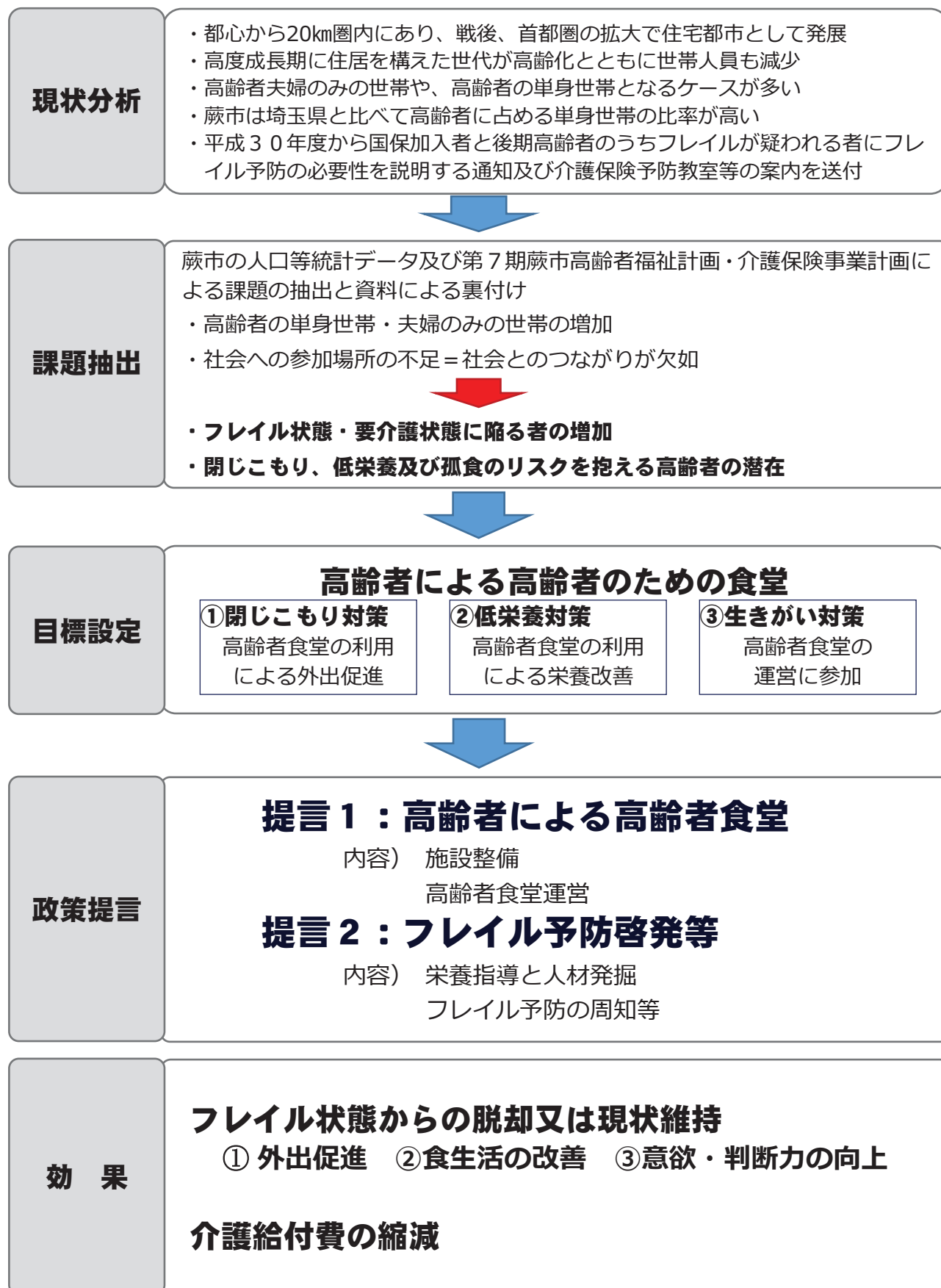
66番 和歌山県紀の川市 花岡 瞳

70番 山口県柳井市 川尻 由紀子

目次

| | |
|-----------------|----|
| 政策提言の要旨 | 1 |
| はじめに | 2 |
| 第1章 高齢化社会の現状 | 2 |
| 第2章 蕨市の現状と課題 | 4 |
| 1 蕨市の現状 | 4 |
| 2 蕨市における既存事業 | 6 |
| 3 課題の抽出 | 7 |
| 第3章 先進事例分析 | 8 |
| 第4章 政策提言 | 10 |
| 提言1 高齢者による高齢者食堂 | 10 |
| 提言2 フレイル予防啓発等 | 12 |
| 高齢者食堂による効果 | 13 |
| おわりに | 14 |

政策提言の要旨



現状分析

- ・都心から20km圏内にあり、戦後、首都圏の拡大で住宅都市として発展
- ・高度成長期に住居を構えた世代が高齢化とともに世帯人員も減少
- ・高齢者夫婦のみの世帯や、高齢者の単身世帯となるケースが多い
- ・蕨市は埼玉県と比べて高齢者に占める単身世帯の比率が高い
- ・平成30年度から国保加入者と後期高齢者のうちフレイルが疑われる者にフレイル予防の必要性を説明する通知及び介護保険予防教室等の案内を送付

課題抽出

- 蕨市の人口等統計データ及び第7期蕨市高齢者福祉計画・介護保険事業計画による課題の抽出と資料による裏付け
- ・高齢者の単身世帯・夫婦のみの世帯の増加
 - ・社会への参加場所の不足＝社会とのつながりが欠如
 - ・フレイル状態・要介護状態に陥る者の増加
 - ・閉じこもり、低栄養及び孤食のリスクを抱える高齢者の潜在

目標設定

高齢者による高齢者のための食堂

①閉じこもり対策
高齢者食堂の利用
による外出促進

②低栄養対策
高齢者食堂の利用
による栄養改善

③生きがい対策
高齢者食堂の
運営に参加

政策提言

提言1：高齢者による高齢者食堂

内容) 施設整備
高齢者食堂運営

提言2：フレイル予防啓発等

内容) 栄養指導と人材発掘
フレイル予防の周知等

効果

フレイル状態からの脱却又は現状維持

- ① 外出促進 ② 食生活の改善 ③ 意欲・判断力の向上

介護給付費の縮減

函館市における大学連携を活用した学習塾

～ 中学校アフタースクール塾「先駆け!!躍進塾」～



指導教官：丸山 淑夫

第2部課程 第184期 第8班

| | | | |
|-----|--------|----|----|
| 1番 | 北海道函館市 | 山村 | 英次 |
| 32番 | 千葉県柏市 | 原 | 晃一 |
| 40番 | 石川県金沢市 | 山田 | 博之 |
| 43番 | 岐阜県関市 | 渡辺 | 活広 |
| 52番 | 愛知県常滑市 | 磯村 | 慶子 |
| 65番 | 奈良県奈良市 | 砂津 | 大輔 |

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| 提言要旨 | 1 |
| はじめに | 2 |
| 第1章 現状分析 | |
| 1 学力調査の結果 | 2 |
| 2 小学生・中学生への学習支援 | 3 |
| 3 中学生の学習実態 | 4 |
| 4 大学との協定 | 5 |
| 5 中学校の状況（生徒数及び立地） | 5 |
| 第2章 課題と解決策 | |
| 1 課題の抽出 | 6 |
| 2 課題設定と解決策 | 6 |
| 第3章 政策提言 | |
| 提言 中学校アフタースクール塾「先駆け!!躍進塾」の実施 | |
| ステップ1 モデル校による中学校アフタースクール塾の実施 | |
| 1 事業概要 | 7 |
| 2 目的と効果 | 7 |
| 3 中学校アフタースクール塾の実施についての考察 | 7 |
| 4 公が運営するアフタースクール塾と民間の学習塾との棲み分け | 12 |
| ステップ2 アフタースクール塾の展開・拡充 | |
| 1 事業概要 | 12 |
| 2 展開・拡充の手法 | 13 |
| おわりに | 14 |

政策提言の要旨

函館市における大学連携を活用した学習塾



高齢化社会に対応する 公共交通の再編

～コスト削減・満足度アップ 市民も市も Win-Win～

たかはぎし
茨城県高萩市



高萩駅バスターミナル

バス停留所【山間地域】



高萩市キャラクター はぎまる

【指導教官】

自治大学校客員教授 藤島 昇

【第2部課程 第184期 第9班】

- | | |
|--------------|-------|
| 14番 (秋田県鹿角市) | 成田 知仁 |
| 17番 (茨城県高萩市) | 伊藤 秀彦 |
| 18番 (茨城県潮来市) | 川井 茂雄 |
| 24番 (埼玉県所沢市) | 肥沼 孝則 |
| 41番 (岐阜県大垣市) | 藤橋 大 |
| 61番 (兵庫県相生市) | 坪田 知己 |

目次

| | |
|-------------------------|----|
| ◆ 政策提言要旨 | 1 |
| ◆ はじめに | 2 |
| 第1章 現状と課題 | |
| 1. 高萩市の概要 | 2 |
| 2. 人口と高齢者の動向 | 2 |
| 3. 路線バス運行の現況 | 3 |
| 4. 路線バスに関する住民ニーズ | 5 |
| 第2章 課題の整理 | 6 |
| 第3章 課題解決の方向性 | 6 |
| 第4章 政策提言 | |
| 提言1 山間地域における公共交通手段の再編 | 7 |
| 提言2 市街地循環バス運行の充実 | 10 |
| 提言3 市民意識の転換による公共交通の利用促進 | 12 |
| 提言を実施するためのスケジュール | 13 |
| ◆ おわりに | 14 |

◆ 政策提言要旨

現 状

- 人口の減少・高齢化率の上昇（特に山間地域）
- 山間地域のバス利用者が少なく、費用対効果が非常に悪い
- 市街地の路線バスの運行便数が少なく、利用しにくい
- 買い物・通院等への移動手段は、主に自家用車に依存



課 題 の 整 理

- 路線バス利用者の減少と費用対効果の悪化
- 公共交通利用への市民意識が低い



課 題 解 決 の 方 向 性

- 効率的で市民が利用しやすい公共交通サービスの確保
- 公共交通を軸に歩いて暮らす生活を支援



提 言

- 提言 1：山間地域における公共交通手段の再編**
- ・ 廃止路線代替バスからデマンド型乗合タクシーへの移行
 - ⇒ デマンド型乗合タクシーの活用により、低予算で利便性向上
- 提言 2：市街地循環バス運行の充実**
- ・ 市街地循環型バスの運行日、運行便数の増加
 - ⇒ 乗り継ぎ、運行便数の見直しにより、不満を解消
- 提言 3：市民意識の転換による公共交通の利用促進**
- ・ 運転免許証返納の推進、健康マイレージ事業との連携、バス利用の意識啓発
 - ⇒ 高齢者の健康増進と交通事故率減少

ベットタウンにおける 持続可能なまちづくりを目指して ～ 子育て世代を呼び込むための施設整備 ～

【指導教官】

自治大学校客員教授

満田 誉

【第2部課程 第184期 第10班】

| | | | |
|-------|----------|----|----|
| ○ 69番 | 広島県府中町 | 丸谷 | 大介 |
| 9番 | 北海道本別町 | 薩田 | 尚文 |
| 10番 | 青森県五所川原市 | 中川 | 智淑 |
| 31番 | 埼玉県吉川市 | 齊藤 | 陽介 |
| 49番 | 愛知県岡崎市 | 萩原 | 新 |
| 50番 | 愛知県刈谷市 | 酒田 | 孝平 |



～ 目 次 ～

| | |
|---------------------------------|------|
| ◆政策提言の要旨 | 1 頁 |
| ◆はじめに | 2 頁 |
| 第1章 現状分析 | |
| 第1節 ベッドタウンの現状 | 2 頁 |
| 第2節 広島県府中町の現状 | |
| (1) 府中町の概要 | 3 頁 |
| (2) 人口・世帯数の動向 | 3 頁 |
| (3) 人口構造バランス | 4 頁 |
| (4) 公共公益施設の現状 | 4 頁 |
| 第2章 課題の抽出と目標設定 | |
| 第1節 課題の抽出 | |
| (1) 取り組むべき課題 | 5 頁 |
| (2) 子育て世代のニーズ分析 | 5 頁 |
| (3) 財政状況 | 6 頁 |
| 第2節 目標の設定 ～目指すまちの姿～ | 7 頁 |
| 第3章 政策提言 | |
| 第1節 政策提言の概要 | |
| 提言1 官民連携による公共施設複合型子育て応援マンションの整備 | |
| (1) 施設の概要～宅幼老所複合型子育て応援マンション～ | 7 頁 |
| (2) 施設の設置場所 | 9 頁 |
| (3) 施設整備の具体的手法 | 10 頁 |
| 提言2 継続的な事業展開のための公有地の選定及び確保 | 11 頁 |
| 第2節 政策の実現可能性 | |
| (1) 先進事例の現地視察 | 12 頁 |
| (ア) 先進事例の概要 | 12 頁 |
| (イ) 先進事例の成功要因 | 12 頁 |
| (2) サウンディング調査の模擬実施 | 12 頁 |
| 第3節 目指す効果 | |
| (1) 子育て世代の呼び込み | 13 頁 |
| (2) 官民連携による経済的メリット | 14 頁 |
| ◆おわりに | 14 頁 |

政策提言の要旨

◆ 政策テーマ

ベッドタウンにおける持続可能なまちづくりを目指して
～子育て世代を呼び込むための施設整備～

◆ 現状と問題点

- ・ 大都市近在のベッドタウンでは、堅調な生産年齢人口の転入がある一方、かつての大規模宅地開発に伴い定住した世代が高齢者となり、**人口構造のアンバランス**が顕著になってきている。
- ・ 人口の社会増に対応するための環境整備の必要がある一方で、老朽化する公共施設への対応も必要となっている。



◆ 取り組むべき課題

持続的な発展に向けた子育て世代の呼び込み



◆ 政策提言

- ①官民連携による公共施設複合型子育て応援マンションの整備
- ②継続的な事業展開のための公有地の選定及び確保

◆ 目指す効果

- ・ 計画的な子育て世代の誘導による人口構造の好バランス化
- ・ 官民連携による経済的・効率的な施設整備の実現とモデル化

観光振興と地域社会の持続

～愛知県西尾市佐久島をモデルに～

アート作品：おひるねハウス photo：Ba×2

指導教官： 自治大学校客員教授 上田 紘士

第2部課程 第184期 第11班

| | |
|-------------|-------|
| 11番 青森県三沢市 | 馬場洋一郎 |
| 37番 神奈川県平塚市 | 三浦 和憲 |
| 51番 愛知県西尾市 | 山崎 高志 |
| 56番 愛知県田原市 | 仲谷 和也 |
| 59番 三重県伊勢市 | 井上 安里 |
| 62番 兵庫県加古川市 | 一井 正寿 |

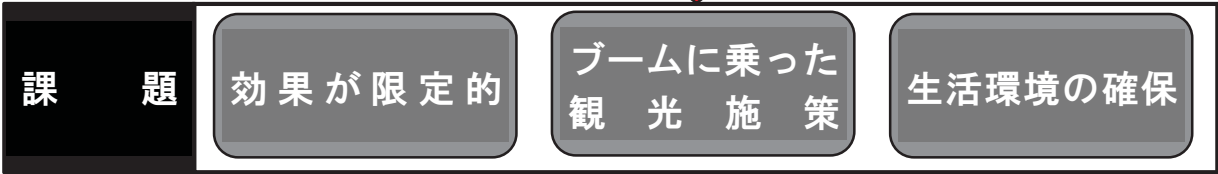
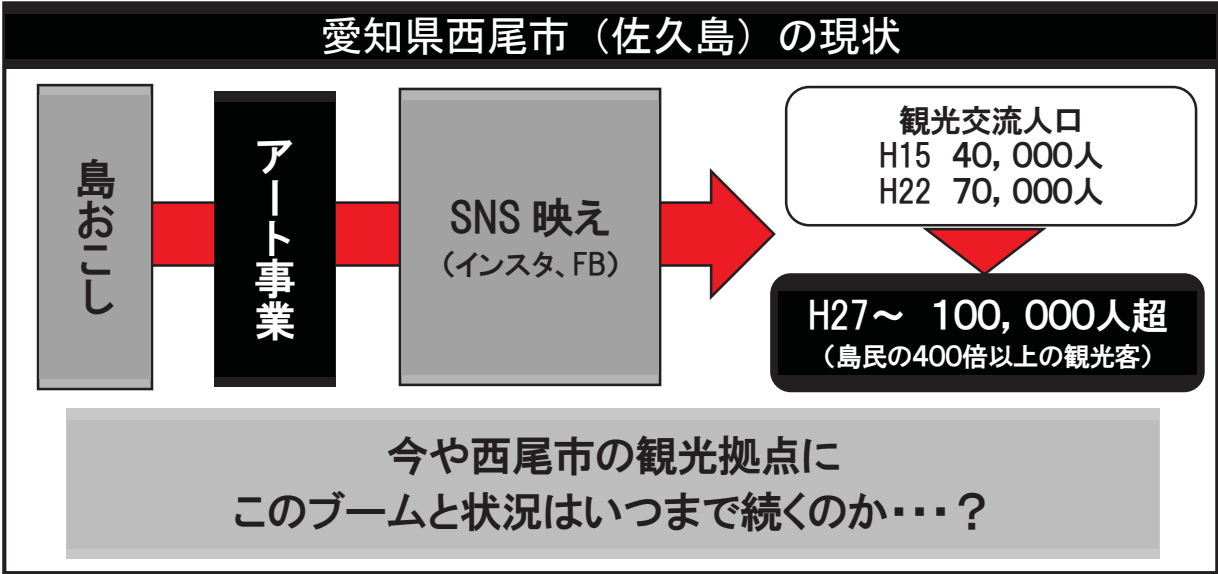
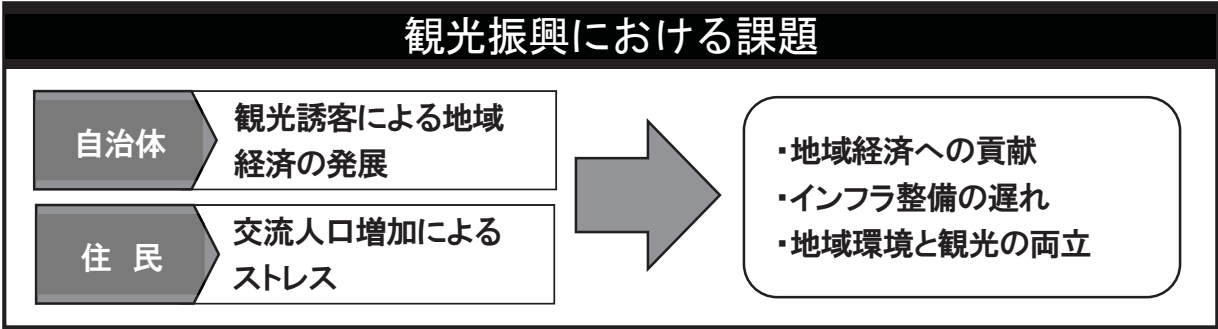
目次

| | | |
|----------------------------|----------|----|
| 政策提言の要旨 | ・・・・・・・・ | 1 |
| はじめに | ・・・・・・・・ | 2 |
| 第1章 現状分析 | ・・・・・・・・ | 2 |
| 1 佐久島（愛知県西尾市）の現状 | ・・・・・・・・ | 2 |
| 2 佐久島のこれまでの取組 | ・・・・・・・・ | 3 |
| 第2章 課題の抽出 | ・・・・・・・・ | 4 |
| 1 インタビューによる課題の抽出 | ・・・・・・・・ | 4 |
| 2 データ分析 | ・・・・・・・・ | 5 |
| 第3章 政策提言 | ・・・・・・・・ | 6 |
| 政策提言1 交流人口の持続的確保 | ・・・・・・・・ | 6 |
| 1 西尾市域への経済貢献 | ・・・・・・・・ | 6 |
| 2 リピーターの確保 | ・・・・・・・・ | 7 |
| 政策提言2 観光と地域環境の共存 | ・・・・・・・・ | 8 |
| 1 生活環境の確保 | ・・・・・・・・ | 8 |
| 2 全市民の参加による佐久島振興に取り組む組織の設立 | ・・・・・・・・ | 10 |
| 政策提言3 新たな財源確保「佐久島税」の創設 | ・・・・・・・・ | 11 |
| 1 財源の用途等 | ・・・・・・・・ | 12 |
| 2 財源確保方策の検討 | ・・・・・・・・ | 12 |
| 3 法定外目的税の創設 | ・・・・・・・・ | 12 |
| おわりに | ・・・・・・・・ | 14 |



アート作品：カモメの駐車場

政策提言の要旨



交流人口の維持と生活環境の改善



みほのせき

美保関の「歴史的な町並み」に磨きをかける

20年後の未来を見据えたまちづくり

～「重要伝統的建造物群保存地区制度」を活用した歴史まちづくり～



(指導教官)

自治大学校 客員教授 三輪和夫

第2部課程 第184期 第12班

20番 群馬県桐生市 橋場 ひろみ

22番 群馬県富岡市 櫛島 幸浩

55番 愛知県日進市 川田 敏章

67番 島根県松江市 飯塚 晃一

76番 佐賀県唐津市 米倉 美和子

78番 長崎県南島原市 楠田 純加

目 次

| | |
|--------------------------|----|
| 政策提言の要旨 | 1 |
| はじめに | 1 |
| 第1章 現状分析 | 2 |
| 1. 美保関地区の沿革 | 2 |
| 2. 美保関地区の現状 | 2 |
| 3. 松江市の歴史まちづくりの取り組み | 3 |
| 第2章 課題抽出と目標設定 | 3 |
| 1. 課題の抽出 | 3 |
| (1) 観光客数と傾向 | 3 |
| (2) 外国人観光客の傾向 | 4 |
| (3) 来訪者アンケート分析 | 4 |
| (4) インタビューによる地域課題の抽出 | 4 |
| 2. 課題のまとめ | 6 |
| 3. 目標の設定（K P I） | 6 |
| 第3章 政策提言 | 7 |
| 1. 町並み保全に関する法制度の活用 | 7 |
| 2. 組織体制とその役割 | 9 |
| 3. 20年後を見据えたゾーニング | 10 |
| 4. 外国人観光客等をターゲットにした観光ルート | 10 |
| 5. 重伝建制度を活用した20年間のスケジュール | 12 |
| 6. 事業効果 | 12 |
| おわりに | 14 |

※ 本稿の年代表記は基本的に和暦とし、改元後の将来的な表記については西暦とする。

政策提言の要旨

1. 島根県松江市美保関地区の沿革（まちの歴史と文化、隆盛）
2. 同地区の現状（人口、高齢化率、産業構造）
3. 松江市の歴史まちづくりの取組み状況
4. 現状分析（統計データ、来訪者アンケート、関係者インタビュー）

モデル地区「松江市美保関（みほのせき）地区」の課題

- まちづくりへの住民意識の不統一
- 町並み保全ルールの不存在

- 建造物老朽化
- 空き家増加
- 町並み景観悪化

- 既存の資源・手法頼みの観光振興

「歴史的な町並み」に磨きをかけ魅力を向上させる

～住民主体で20年後にもまちづくりが動き続ける仕組み～

政策提言

1. 町並み保全に関する法制度の活用【視点】住民への規制と支援
2. 動き続ける住民組織づくり【視点】住民組織・民・官の役割分担
3. まちのトータルデザイン【視点】建造物修繕、空き家活用、周辺整備
4. 外国人等をターゲットにした新観光ルートづくり【視点】交通、利益確保

効果

1. 町並み整備による歴史的景観の保全
2. 空き家の有効活用による観光立ち寄りスポット・滞在時間の増加
3. 観光客、宿泊客の増加による地元収益の増加、雇用増加、産業維持
4. 地区住民の一体感・郷土愛醸成、いきいきと暮らせるまちづくり

はじめに

地方自治体が地域活性化に取り組む一つの手法として「歴史を活かしたまちづくり」がある。高度経済成長期における歴史的町並みの消失を教訓に昭和50年の「文化財保護法」改正、平成16年「景観法」制定、さらに平成20年に「地域における歴史的風致の維持向上に関する法律（通称、歴まち法）」が制定された。いずれも我が国特有の文化財と歴史的景観、伝統文化の『保存』と『活用』を主旨とするものであり、地方自治体もこれに呼応して歴史を活かしたまちづくりに取り組んできた。

一方で、地方では歴史的価値のある建造物の老朽化、空き家化、それらに対する維持管理経費や人材の不足により地域特有の町並みが失われつつあり、経済性の観点からそのような貴重な歴史的景観を維持できないという問題も顕著となっている。

本班のメンバーは、世界遺産、国宝、重要伝統的建造物群保存地区、日本遺産などの歴史文化遺産を有する地方自治体の職員で構成したグループであるが、共通の課題として、文化財指定後短期間での観光客減少や、運営組織体制の脆弱さ、周辺エリアへの経済波及効果の

要配慮者が安心して過ごせる 福祉避難所の指定と運営について



指導教官

自治大学校客員教授 市橋 保彦

第2部課程 第184期 第13班

| | | | | | |
|-------|------|--------|-------|-----|-------|
| 6 番 | 長沼町 | 武田 光春 | 2 1 番 | 太田市 | 田島 吉則 |
| 4 4 番 | 瑞浪市 | 工藤 雄一 | 5 3 番 | 小牧市 | 生駒 浩之 |
| 5 7 番 | みよし市 | 近藤 諭一郎 | 6 4 番 | 播磨町 | 安立 圭一 |

目次

| | |
|---------------------------------|----|
| 政策提言の要旨..... | 1 |
| はじめに..... | 2 |
| 第1章 現状分析..... | 2 |
| 第1節 被害想定..... | 2 |
| 第2節 福祉避難所の配置状況と収容可能人数等..... | 3 |
| 第3節 想定される避難者数..... | 4 |
| 第4節 太田市が期待できる支援等の現状..... | 4 |
| 第5節 群馬県における災害時の福祉支援体制の整備状況..... | 5 |
| 第2章 課題抽出とKPIの設定..... | 5 |
| 第1節 福祉避難所の収容能力の不足..... | 5 |
| 第2節 ケアを行うために必要となる物資の不足..... | 6 |
| 第3節 福祉支援の実施体制における諸課題..... | 7 |
| 第3章 政策提言..... | 8 |
| 第1節 福祉避難所の指定等による収容能力の確保..... | 8 |
| 第2節 ケアを行うために必要となる物資の確保..... | 10 |
| 第3節 福祉支援の実施体制の確保..... | 11 |
| 第4節 災害多言語支援センターの設置..... | 13 |
| おわりに..... | 14 |

政策提言の要旨

現状分析

群馬県太田市(人口 219,807 人 面積 175.54 ㎡)

- ①被害想定
- ②福祉避難所の配置状況と収容可能人数等
- ③想定される避難者数
- ④太田市が期待できる支援等の現状
- ⑤群馬県における災害時の福祉支援体制の整備状況



課題

避難所で要配慮者に適切なケアを行えない可能性が高い

- ①福祉避難所における収容能力の不足
- ②ケアを行うために必要となる物資の不足
- ③福祉支援の実施体制における諸課題

目標

- ①福祉避難所における収容能力の向上
- ②ケアを行うために必要となる物資の備蓄の拡充
- ③福祉避難所に必要な人の確保とノウハウの蓄積

政策提言

- ①福祉避難所の指定等による収容能力の確保
- ②ケアを行うために必要となる物資の確保
- ③福祉支援の実施体制の確保
- ④災害多言語支援センターの設置

要配慮者が安心して過ごせる福祉避難所の実現

避難所の早期解消に向けて

＝平成30年7月豪雨における「中期避難者」課題の教訓を基に＝



(平成30年7月7日の広島県三原市本郷地域の状況)

(指導教官)

自治大学校客員教授 上田 紘士

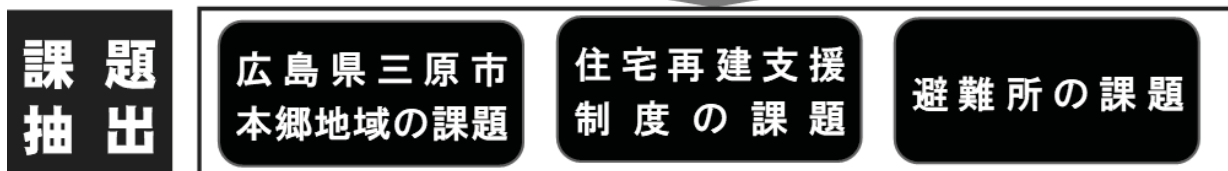
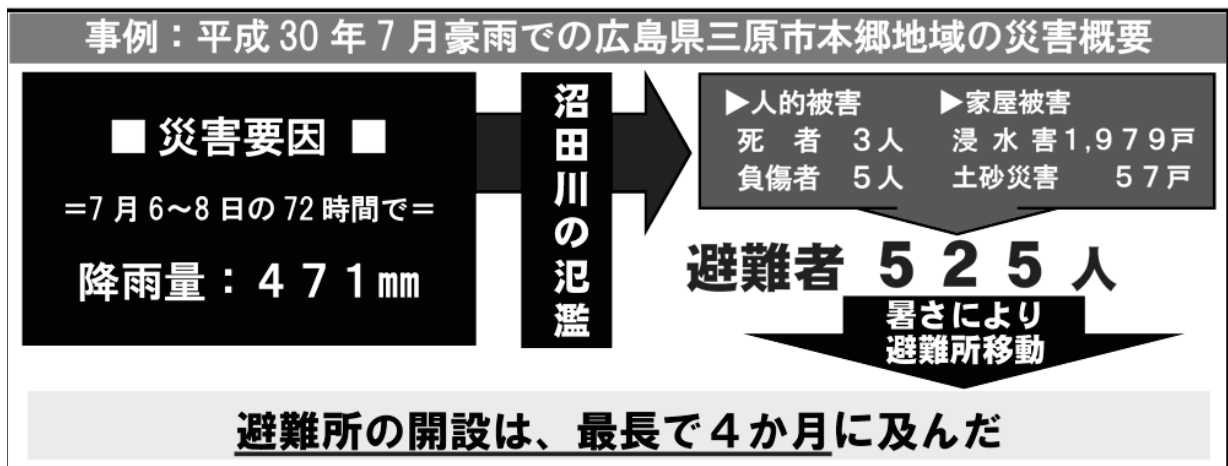
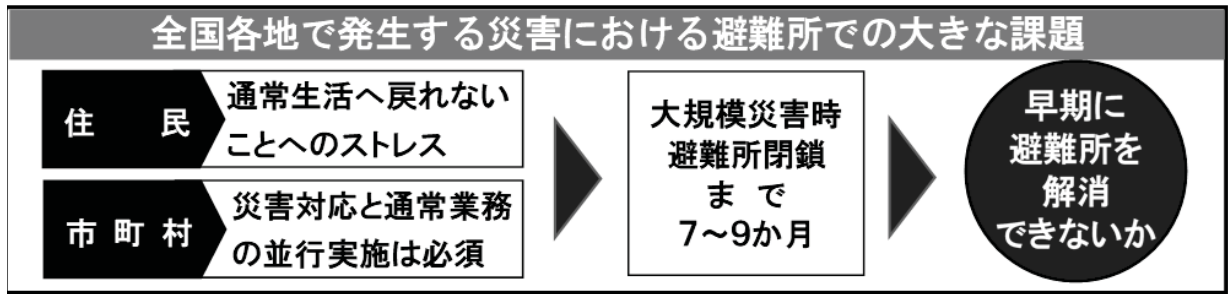
第2部課程第184期 第14班

| | | | |
|---------|---------|----|----|
| リーダー63番 | 兵庫県朝来市 | 足立 | 智義 |
| 03番 | 北海道黒松内町 | 津谷 | 教宣 |
| 04番 | 北海道余市町 | 大平 | 直規 |
| 54番 | 愛知県知多市 | 江端 | 秀和 |
| 68番 | 広島県三原市 | 三信 | 裕司 |
| 72番 | 徳島県鳴門市 | 金森 | 章郎 |

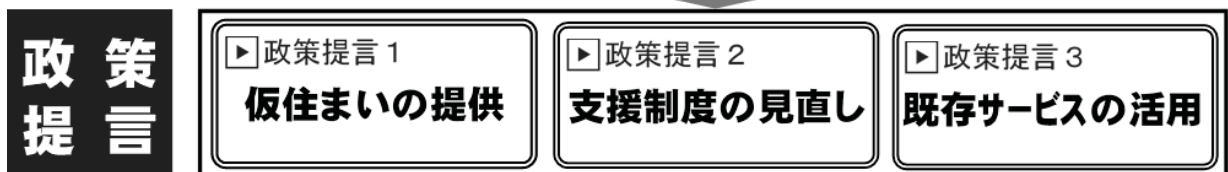
目 次

| | | |
|---------------------|------|----|
| ■政策提言の要旨 | ．．．． | 1 |
| ■はじめに | ．．．． | 2 |
| ■災害の概要 | ．．．． | 2 |
| ■第1章 現状分析 | ．．．． | 3 |
| 1 広島県三原市本郷地域の現状 | ．．．． | 3 |
| 2 住宅再建支援制度の現状 | ．．．． | 4 |
| 3 避難所の現状 | ．．．． | 4 |
| ■第2章 課題抽出 | ．．．． | 5 |
| 1 広島県三原市本郷地域の課題 | ．．．． | 5 |
| 2 住宅再建支援制度の課題 | ．．．． | 6 |
| 3 避難所の課題 | ．．．． | 6 |
| ■第3章 政策提言 | ．．．． | 7 |
| 政策提言1 仮住まいの提供 | ．．．． | 8 |
| 1 空き家の活用 | ．．．． | 8 |
| 2 民泊の活用 | ．．．． | 8 |
| 3 移動型住宅の活用 | ．．．． | 9 |
| 政策提言2 支援制度の見直し | ．．．． | 10 |
| 1 住宅再建支援制度の拡充 | ．．．． | 10 |
| 2 自宅復旧業者登録バンク制度の創設 | ．．．． | 11 |
| 政策提言3 既存サービスの活用 | ．．．． | 12 |
| 1 自宅に足りない機能の補完 | ．．．． | 12 |
| 2 既存施設をつなぐデマンド交通の活用 | ．．．． | 13 |
| 3 避難施設の本来機能を代替え施設へ | ．．．． | 14 |
| ■おわりに | ．．．． | 14 |

■ 政策提言の要旨 ■



制度の狭間に置かれる「中期避難者^{※1}」の対応。



※1 中期避難者：自宅修復を選択し、自宅修復までの間、避難所で生活を継続する者。 ※本提言書のみで使用している用語。